

2026年 AI業界大変革予測

2026年、AI業界は大きな転換点を迎える。トップ企業の覇権争いから、中国製オープンソースモデルの台頭、そして自動運転や家庭用ロボットといった物理世界での応用まで、松尾豊教授の予測を基に未来の勢力図を読み解く。

ソフトウェアの覇権争い

GoogleがOpenAIを逆転か？



GoogleがOpenAIを逆転か？

Geminiモデルの猛追を受け、OpenAIは「コードレッド」を発令。勢力図が塗り替わる可能性。



中国発オープンソースAIの衝撃

DeepSeek等の高性能モデルが無償公開され、米国主導のクローズドモデルに挑戦。



物理世界での実装競争

家庭用AIロボットが現実の選択肢に

価格はまだ高額だが、家事をこなす人型ロボット「NEO」などが登場し予約開始。



自動運転：異なる戦略の対決

テスラ方式

センサー：カメラのみ



強み：低コスト・高い拡張性



2026年時点の現実性：
運転支援レベル

ウェイモ方式

センサー：複合センサー（LiDAR等）



強み：高い安全性・悪天候に強い



2026年時点の現実性：
限定エリアで無人タクシー商用化